



中家徹の ピンチを チャンスに!

第1回 人生の岐路

中家 徹
な か や と お ち り

1949年 和歌山県田辺市生まれ。
2017年8月JA全中会長に就任。

8月に全国農業協同組合中央会
会長に就任した。農業者の所得増
大に力を入れ、JAが組合員や地
域住民から「なくてはならない組
織」になるために全力を尽くした
いと思っている。

私は和歌山県田辺市の農家の長
男として生まれた。ミカンや梅な
どを生産する果樹農家で、子供
頃から家の手伝いを、相当してき
た。ミカンの収穫をしたり、稲作
の管理をしたり、農家の子弟であ
ればそれが当然だった。今でこそ
稲作も機械化されているが、昔は
農家では牛を飼っていて、田や畑
を牛の力で耕していた。物を運ぶ
時もありヤカーに積んで牛に引かせ
たので、私は後ろから押すのだが、
自宅前には坂道があったので苦勞
したのを覚えている。

失敗から学んだ厳しさ

小学校4年生の時、収穫した梨
を自宅から4キロほど離れた市場
に出荷するので、おやじに「お前

も一緒に来い」と言われた。当時
は荷物運搬用の大きな自転車で運
んでいたのですが、私は木箱に詰めた
梨を荷台に乗せてペダルを踏んだ。
その頃の道路は舗装されていない
からガタガタだ。しかも重い荷物
を積んでいたため、転ばないよう
に自転車をこぐので精一杯だった。

市場に着いて木箱のふたを開ける
と、私が運んだ梨は傷だらけ。一
方、平らな所を選んで上手に走っ
たおやじの梨には傷一つない。農
業の手伝いをする難しさ、厳しさ
を教えられたと思っている。

高校時代はバレーボールに熱中
し、体育の教師になるのが夢だっ
た。体育大学にも合格し、
薦入学にも合格し、
おやじの許しも得
ていた。しかし、

農家の長男は後を
継ぐものだと育て
られ、両親からは
先祖から受け継い
だ田畑を減らして



中央協同組合学園で（左から2番目が著者）。
学友との絆は今も大切にしている。

はならないと教えられてきたこと
や、おやじとガタガタ道を自転車
で走った思い出などが頭をよぎり、
悩んだ末に体育大学への進学を断
念した。大きな葛藤があったが、
最終的には親を裏切ってはならな
いと思いつき、農業を選んだ。

おやじからはその時、まだ若い
から農協で勉強してはどうかと言
われ、中学校の校長先生からは当
時の協同組合短期大学への入学を
勧められた。しかし、協同組合短
期大学はあいにく閉校が決まって
おり、その代わり中央協同組合学
園が新設されると聞いた。開校は
翌年9月だったので、その間、地

元の紀南農協で研修生と
して勉強させてもらっ
た。様々な部署
を回って約1年半、農協
で職員と同じように現場
での経験を積ませてもら
った。私の人生において
非常にプラスになった時
間だ。